

喫煙の継続と禁煙

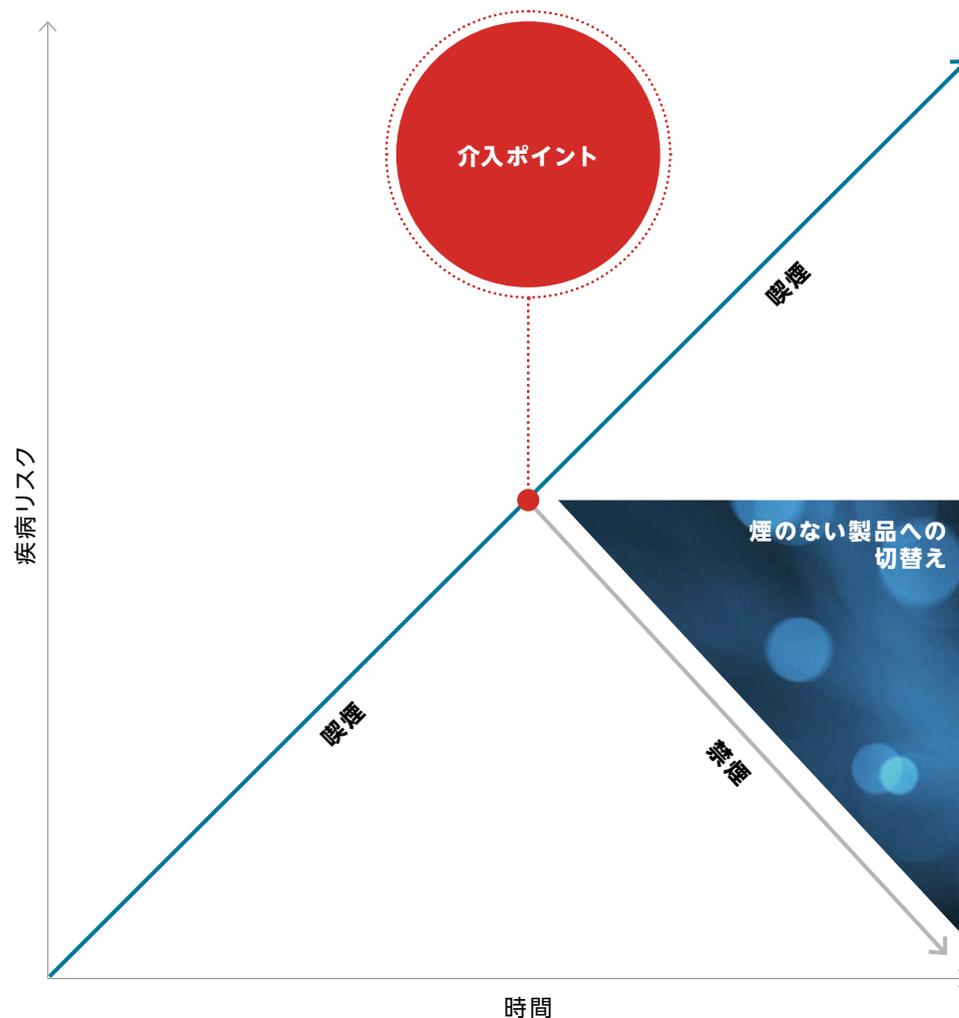
疫学研究から、喫煙によって喫煙関連疾患の発症リスクが高まることが分かっています。

また、禁煙によって喫煙関連疾患の発症リスクが下がることも実証されています。

禁煙は成人喫煙者のリスク低減を評価する「究極の判断基準（ゴールデン・スタンダード）」です。そのため当社は、リスク特性が可能な限り禁煙に類似し、同時に、今後も喫煙を続ける意思を持つ成人喫煙者に受容可能な紙巻たばこに代わる製品の開発を目指しています。



図1 喫煙による累積リスクと禁煙による効果を時系列で示した概念図。疾患リスクの累積と、禁煙および煙の出ない製品への切替えによるリスクの低減は、疾患によって異なる軌道を描きます。図内の直線は説明のために使用したものであることにご留意ください。



リスク低減と成人喫煙者による製品受容の一体化

煙の出ない代替品が害の低減に資するには、2つの基準を満たす必要があります。それは、紙巻たばこよりも大幅に有害性が低減されていると科学的に証明されていること、そして現在の成人喫煙者が満足できるものであることです。

成人喫煙者に受け入れられるためには、味わいやその他の感覚的要素に加え、紙巻たばこに近いニコチン摂取ができることが重要です。米国公衆衛生局長官や英国王立内科医協会などの専門家は、ニコチンには習慣性があるものの喫煙関連疾患の主要な原因ではないとの見方で一致しています。

肺がん、心血管疾患、肺気腫などの喫煙関連疾患の主原因は、ニコチンではなく、たばこ葉を燃やしたときに発生する有害な化合物を吸い込むことです。

米国食品医薬品局 (FDA) は、「(燃焼を伴わない製品の) ニコチンの吸引は、燃焼を伴うたばこ製品の煙から出るニコチンの吸引よりも、使用者にとってリスクが少ない」と述べています¹。

「(燃焼を伴わない製品の) ニコチンの吸引は、燃焼を伴うたばこ製品の煙から出るニコチンの吸引よりも、使用者にとってリスクが少ない」

U.S. Food and Drug Administration

図2
ハーム・リダクションの方程式
2013年11月19日に開催された電子たばこサミットでのクライブ・ベイツ氏のプレゼンテーションより



¹ www.federalregister.gov/d/2016-10685/p-677